

## 【事業実績】

### 【県内外の先進事例調査】

県内事例調査では過疎化が進む中山間地のミュージアムを巡ることで、地域におけるミュージアムの役割を知ることができた。県外の先進的事例の調査では、地域の歴史を調査し学び伝えるさまざまな手法を学ぶとともに、調査を通じて先進事例の運営者、関わるNPO 法人等と人的ネットワークをつくることができた。



金山町自然教育村会館（旧玉梨小） 調査風景 2020/11/24



舞鶴引揚記念館 調査風景 2020/11/18

### 【スタディツアー】

奥会津地域 5 町村で連続的に開催したオープンディスカッションに参加いただくことで、5 町村を巡る形態とした。奥会津の豊かな自然に根差したくらしと文化を学び、その継承について考えるツアーとなった。



連続オープンディスカッション「奥会津の周り方」  
第2回「清の眼 根っこの眼 それぞれの地域学」  
2020/9/19（会場：やないづ町立斎藤清美術館）



連続オープンディスカッション「奥会津の周り方」  
第4回「民具整理から見えてくる奥会津のくらし」  
2020/11/14（会場：交流・観光拠点施設喰丸小）

### 【オープンディスカッション】

福島県二本松市に避難した浪江町の記憶の継承、コミュニティとミュージアムをテーマとしたオープンディスカッションを行った。



オープンディスカッション「浪江の記憶の残し方・伝え方」  
2021/1/11（会場：二本松市民交流センター）



オープンディスカッション「場を編む 人を結ぶ」  
2021/1/17（会場：白河市・コミュニティカフェ EMANON）

## 【フォーラム】

土地の記憶を継承する活動を行っている三者から講演をいただき、土地の記憶に向き合うことが生み出すこと、福島の課題について議論した。



フォーラム「地の記憶を苗床に～空知・島ヶ原・舞鶴に学ぶ「ミュージアム」的なこと」  
2021/1/24（会場：福島県立博物館）

## 【プログラム開発】

新たなミュージアムの機能の構築として、「多様なニーズに応えるミュージアムの利活用プログラム」では、オンラインとハンズオンを組み合わせるミュージアムを支援学校に届ける試行をした。「生活資料を活用したミュージアムの連携プログラム」では、生活資料(民具)を地域ミュージアムと連携してキット化し活用するモデルを考案した。「地域資源の活用による地域アイデンティティの再興プログラム」では、関係者等へのインタビューにより地域にとっての文化資源の意味を捉え直し、文化資源の収集・調査施設であるミュージアムの役割を再確認できた。



「多様なニーズに応えるミュージアムの利活用プログラム」  
2020/9/17 福島県立会津支援学校へただみ・ブナと川のミュージアムを届けよう



「生活資料を活用したミュージアムの連携プログラム」  
2020/11/19 金山町「マタタビ細工研究会」での聞き取り調査



「地域資源の活用による地域アイデンティティの再興プログラム」  
2020/7/15 大堀相馬焼関係者へのインタビューの様子

## 【参加者の声(抜粋)】

- ・文化とは何か。人のつながりを育てる力なのかなと勉強になりました。
- ・生まれた地域、生活している地域の再認識・再発見をするきっかけになりました。
- ・保存して遺すだけでなく、どう伝承するか、その苗床から何を育て実を採っていくのか。今後の福島での取り組みに大いに参考になるお話だった。